

第2回坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会 次第

日 時 令和8年7月15日（水）
午後1時30分から午後3時30分まで

場 所 ハーモニー春日井 ホール

- 1 開会
- 2 市からの説明・質疑応答
- 3 構成員どうしによる意見交換
- 4 その他
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

目 次

I	小中一貫教育制度	1
II	通学バス	3
III	第1回坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会傍聴者意見	5
	参考資料	7
	・第1回坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会 質疑応答一覧	7

I 小中一貫教育制度

小中一貫教育制度の検討にあたり、導入したことによる効果や課題、具体的な取組について調査を行いました。

1 対象自治体数

区分	自治体数
義務教育学校	8
小中一貫型学校（一体型）	5
小中一貫型学校（分離型）	5

※ 複数の区分に該当する自治体は、それぞれの区分に重複して計上している。

2 効果

(1) 主な意見

- ・ 中学校教員が小学校の授業に関わることにより専門性を活かした指導ができる。
- ・ 中1ギャップの軽減・解消につながる。
- ・ 義務教育9年間を見通した継続的な指導ができる。
- ・ 異学年の集団での活動が充実する。
- ・ 前期課程（小学校）と後期課程（中学校）の教職員が連携しやすい。

(2) 具体的な取組例

項 目	具体的な取組
9年間継続した授業の実施	・ 9年間の継続したカリキュラムとして、地域資源を活用した発信型プロジェクト学習といった総合的な学習の時間を設けており、小中一貫校では取組がしやすい。 ・ 生徒指導面において、小学校と中学校の共通のテーマを設定し、9年間一貫した教育理念のもと指導を行っている。
中1ギャップの解消	・ 1年生から9年生（中学3年生）で学園祭などの行事を合同で実施することや、中学校の先生が小学生に授業を行う「乗り入れ授業」を実施している。 ・ 小学6年生が中学校の教室で授業を受けるといった中学校へのプレ入学体験の取組をしている。 ・ 義務教育学校として学年の区分を1～4年生、5～7年生、8～9年生といった「4－3－2」に分けているため、そもそも中学1年生といった概念がない。
異学年交流	・ 4年生がリーダーとなり1年生に学校案内を行ったり、8年生（中学2年生）と2年生で清掃を行うなど、異学年交流を進めている。 ・ 授業の一部で、異学年の子どもと同じ空間で同じ授業を受けている。

3 課題

(1) 主な意見

- ・小学校高学年のリーダーシップの育成が難しい。
- ・小学生と中学生との施設の共有利用に課題がある。
- ・人間関係が固定化しやすい。
- ・教員同士の調整時間の確保が難しい。

(2) 課題に対応するための取組例

項 目	課題に対応するための取組
小学校高学年のリーダーシップの育成	・ 小学校だけの行事や小学生だけの委員会を設けて、小学6年生が活躍できる場をつくっている。
小学生と中学生との施設の共有	・ 1年生から9年生（中学3年生）まで一律授業時間を45分にしている。中学生は一般的には50分授業のため、1日の終わりに5分間×6限分の授業時間を設けて小テストを行うなどしている。 ・ 1年生から9年生（中学3年生）まで一律授業時間を50分にしている。小学生は一般的には45分授業のため、授業最後の5分間は復習や次の授業の準備時間としている。 ・ 学校施設の共有について、遊具の使用を1年生から4年生までに限っている。 ・ 体育館を2つ用意している。

Ⅱ 通学バス

1 他自治体への調査

通学バスの検討にあたり、先行事例や運用状況に関する調査を行いました。

(1) 運用形態

区 分	自治体数
直接運営	2
外部委託	6
路線バス利用	4

※ 複数の区分に該当する自治体は、それぞれの区分に重複して計上している。

(2) 利用対象者の範囲

- ・ 自宅から学校までの距離で、バスの利用対象を定めている自治体が多い。
2 km以上：4自治体 1.5 km以上：1自治体 3 km以上：1自治体

(3) 便数

- ・ 6つの自治体で、登校時は各ルート1便としている。バスに乗り遅れた場合は、各自で登校する。
- ・ 7つの自治体で、下校時は複数便としている。学年別に授業時間数が異なることや、部活動に参加する児童生徒に対応している。
- ・ 下校時の時間を合わせるために学童保育を利用したり、授業を追加で実施したりしている自治体はない。
- ・ 特定の曜日は小学校低学年と高学年の授業時間数を合わせることで、下校時の便数を少なくしている自治体がある。

(4) バス停までの集合方法

- ・ 4つの自治体では、通学班でバス停まで行くこととしている。その他の自治体では、個人でバス停まで行くこととしている。
- ・ 中学生と小学生で同じ通学班を組んでいる例はない。
- ・ 中学生はバスを利用する場合でも個人で登校している。

(5) バス停の設置・整備

- ・ バス停は徒歩で通うことができる場所に設置している。バス停の設置場所について、バス停と自宅までの距離を定めている自治体はない。
- ・ 定期的にバス停の位置を見直す自治体がある。
- ・ 通学支援のボランティアがバス停で活動している自治体がある。
- ・ 直営運営または外部委託の場合のバス停は、公共施設や地域の集会所に設置している自治体が多い。

公共施設、地域の集会所等：7自治体 民間などの近隣施設：2自治体

(6) 利用者負担

- ・バス利用者が利用料金の一部を負担している自治体は、調査を行った中では瀬戸市のみであり、他の自治体では利用者負担はない。

2 通学バスの想定利用者数

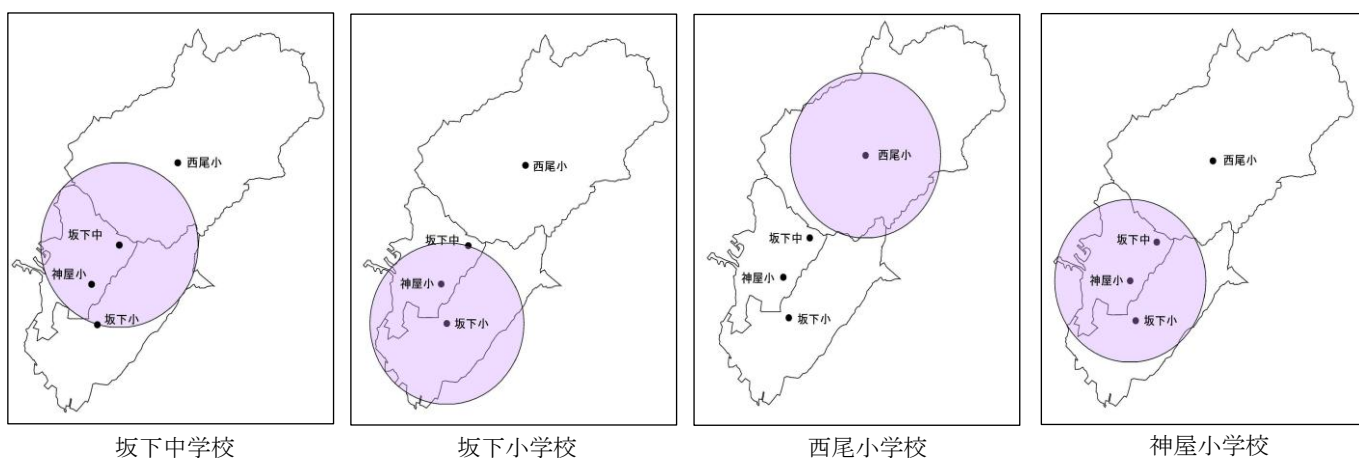
学校統合後の新たな学校の設置場所ごとに、令和8年度及び令和14年度における通学バスの想定利用者数を示します。

(1) 想定利用者数の算出条件

坂下中学校区の全児童数から次の条件にあてはまる児童を除いて算出する。

ア 候補地となる学校の小学校区に在住の児童

イ 候補地となる学校から直線距離で1.5km圏内に在住の児童



(2) 通学バス想定利用者数及び割合

【令和8年度】 中学校区全体の児童数 641 人

候補地	坂下中学校	坂下小学校	西尾小学校	神屋小学校
バス利用者数	339 人	150 人	580 人	243 人
利用者数割合	52.9%	23.4%	90.5%	37.9%

【令和14年度】 中学校区全体の児童数 426 人

候補地	坂下中学校	坂下小学校	西尾小学校	神屋小学校
バス利用者数	245 人	92 人	393 人	162 人
利用者数割合	57.5%	21.6%	92.3%	38.0%

※ 児童数には特別支援学級の児童数を含んでおり、また、校区外通学をしている児童などを考慮していないため、児童生徒数推計の児童数と異なる。

※ 利用者数の算出について、前回の資料では坂下中学校区の各町丁目を単位に利用者数を算出したが、「神屋町」や「坂下町4丁目・7丁目」といった坂下小学校区と神屋小学校区が混在する町丁目についてより正確に算出するために、住所の番地を単位に算出している。そのため、前回の資料で示した利用者数割合の値と異なっている。

Ⅲ 第1回坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会 傍聴者意見

1 意見提出者

西尾小学校区 3人7件

【意見の分類と件数】

意見の分類	件数
今後の進め方	3件
スケジュール	1件
アンケート	1件
放課後の子どもの居場所	1件
学校の設置場所	1件
合計	7件

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
1-1	スケジュール	意見交換会を経て現段階での整備開始は最短で何年が想定されますか。未定なのはわかりますが、子どもが在校中に、統合はなくても整備中に別の学校に通う可能性があるのなら目安は欲しいです。校区変更で引っ越しを検討される方もいると思います。	今後は、令和8年12月をめどに懇談会での意見を集約し、市が方針を決定した上で、統合に向けた計画を策定していきます。 整備開始の時期は現時点では回答しかねますが、今後の懇談会の中で、概ねのスケジュールを示すことを考えています。
1-2	アンケート	アンケート結果について、反対の声が記載されていない。必要ではないか。	これまでの意見交換会ではアンケート結果を紹介してきました。 アンケート結果は、市ホームページに全て掲載しています。
2-1	放課後の子どもの居場所	3校の小学校と坂下中学校を合わせた学校そのものを考えると様々な案があり、どれが正解ということでもなく、住民が納得できる案を決めるのはとても難しいと思いました。 放課後の施設の利用者がいますが、小学校の統合後はその施設まで行くにはバスなどの利用ができますか。	市が運営する放課後の子どもの居場所には、「なかよし教室」と「子どもの家」があり、西尾小学校区では両事業をあわせた形態の「あい農子どもクラブ」があります。 「なかよし教室」と「子どもの家」は、現時点では統合後の学校で運営することを考えているため、バス利用での移動は想定していません。

No.	分 類	意 見 の 要 旨	市 の 考 え 方
2-2	今後の 進め方	春日井市の方針として複数クラスを 良しとするならば、もっとスピード感 を持って進めてほしい。	学校統合の取組は行政だけで進め るのではなく、地域の方と意見交換 をしながら丁寧に進めていく必要が あります。スピード感をもって進め たいと考えますが、しっかり議論を 積み重ねて進めていく必要があると 考えています。
2-3	学校の 設置場 所	坂下中学校の周辺土地で拡張できる 見込みの場所はどこなのか。 案をしぼり、現状の状況ばかりでな く、新しい学校のモデルをいくつか提 示してほしい。	中学校に隣接する北側または南側 の土地を候補地として考えていま す。 第1回懇談会では、市から複数の 案を提示しました。また、小中一貫教 育制度の導入など、新しい学校のモ デルについても案を示しています。
3-1	今後の 進め方	何度か意見交換会に参加したが、毎 回質問の内容が同じである。スケジュ ール、バス、場所はどうか。毎回 あいまいな返答であるので、同じ質問 が出た場合は、次回までにある程度で も良いので決めるなりして提示して欲 しい。	懇談会は、学校統合の必要性を含 め、具体的な内容について意見交換 を行っていく会として位置づけてい ます。具体的な検討が進むように、適 宜、必要な情報を提供していきたい と考えています。
3-2	今後の 進め方	学校づくりが地域のまちづくりにつ ながるのであれば、教育委員会だけ でなく農政課の人なども呼び、まちづ くりにつながる話し合いにするべきで はないか。	学校統合の検討にあたっては、子 どもたちにとってより良い教育環境 の実現を考えて進めていきますが、 教育委員会の所管外の内容を議論す る場合には、別部署の職員の出席も 必要に応じて検討します。

【参考資料】

第1回坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会 質疑応答一覧

No.	質 問	回 答
1	【地域住民】 費用の説明があったが、これは学校建設費のみか、それとも周辺のインフラ整備も含めたものか。	掲載しているのは学校の建設費用のみです。他市の直近の工事などを参考に掲載しています。
2	【就学児保護者】 バスを運行することについて、仮に西尾小学校に統合する場合、西尾小学校に通っていた子は徒歩になるのか。	西尾小学校に仮に学校を設置する場合として、資料に1.5km圏内を円で表示しています。春日井市の標準的な考え方として1.5kmまでは徒歩という考えを持っていますので、基本的にはこの円の中の子どもは徒歩ということを想定していますが、決定事項ではありません。
3	【就学児保護者】 現状のままだと学校は大規模修繕が必要だと思う。それに関連したスケジュールについて、全校に大規模修繕というのは非現実だと思うので、それがいつ頃行われるのか、考えながら統合の検討を進めなくてはいけないと思う。 また、統合の先行事例について、こういう面が良かったとか他市の成功事例、メリット・デメリットなど生の声があるとイメージしやすい。	春日井市内の小中学校は、概ね50年をめぐりに大規模改修を実施するということで進めています。 他市の統合による成功事例や失敗事例などは、調査・聞き取りをした上で、次の2回目の懇談会の資料として示すことができるように準備します。
4	【公立保育園等の代表者】 検討の順序として、やはり教育が一番に来るのかなと思うので、小中一貫校にするのかということから議論を始めていかないと、場所やシステムをどうするか議論ができない。次回では小中一貫校のメリット・デメリットを詳しく説明してもらって、議論した上でないと建設予定地などの話は先に進まないような気がする。 バスのことについては皆様が一番不安になっているので、もう少し詳しい情報がほしいと思う。小中一貫校にした場合、中学生と小学生で通学団を組めるのか。中学生は基本的には自転車を通うことになるのか。もう少しバスに対してイメージしやすいように説明をしてほしい。現在、神屋小学校では子どもの数が減っていて、通学団の人数が少なくなっているところや、1年生が2人しかいないところもあり、地域の見守り隊の方が通学のサポートをしている。中学生が小学生を引率してくれるなど、他市の事例があれば教えてほしい。	小中一貫教育については、一体型か分離型のどちらにするかによって、学校の設置場所の考え方などが変わってきます。こちらについても、他市の状況を調査し、メリット・デメリットを整理して、次の懇談会にてお示しします。また、通学に関する事例についても調査し、資料としてお示ししたいと考えます。

No.	質 問	回 答
5	【就学児保護者】 統合にあたって、何を大事に考え取組を進めていくのか。 西尾小学校では令和9年度から複式学級になるとされているが、1学年に1学級を保てない学校では不安を感じる。このような問題を早く解決するため、スピード感について市はどう考えているのか。小中一貫教育制度などの方針が決まってからでないと取組は進んでいかないのか。	統合を考えるにあたって、春日井市が大事に考えていることは、1学年に少なくとも複数クラスができるような学校編成をしたいということです。ある程度の集団を形成することによって、人とのつながりといった人間関係や社会性を育成したいと考えています。 複式学級については、教職員が他市を視察するなどして、実際にどのように教育を行うかを研究しているところですが、市としてはスピード感をもって、1学年に複数の学級を確保できるように取組を進めたいと考えています。 この取組は行政だけで進めるのではなく、地域の方と意見交換をしながら、地域に根ざした学校を考えていく必要があります。なるべく早く進めたいとは思いますが、しっかり議論を積み重ねて学校づくりを進めていかなくてはいけないと考えています。
6	【地域住民】 これまでの意見交換会では、5年後、6年後の開校に向けてという表現があったかと思うが、今回なくなっており子どもの数が少なくなることだけしか書いていない。 子どもの数は減っており、見守り隊という地域活動が通学のサポートをしているが、狭い道は危ないと感じるので、道の整備を考えてほしい。 子どもの数を増やすことは考えてもらえないのか。このあたりの地区は市街化調整区域で新しく購入していただける土地ではない。この地域に若い人が移住してくれば、子どもも増えて取組の考え方も変わる気がする。 通学バスについては、最近事故が多かったり、運転手の確保も困難と聞く。その辺りもしっかり検討してもらいたいと思う。	意見交換会の時には、学校統合の方法として、新しい学校をつくる場合、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合という手法を示した上で、新しい学校をつくるのであれば、5年程度の期間がかかると説明してきました。 本日の説明の中で、市の考えとして小学校については新しい学校を作っていく予定ということを示しましたので、この考えで進めるのであれば、5年ぐらいの時間はかかると見込んでいます。 まちづくりに関することについては、魅力ある学校をつくり、坂下中学校区に人が集まってきて子どもが増えていくことは理想ですが、そのためには市街化調整区域の話もありますので、都市政策の部門とも検討していきたいと考えています。 通学バスについては、既にバス運行会社とも情報共有しているところです。学校を設置する場所が決まれば利用者数が想定できるので、具体的な検討はそれからとの話をいただいています。バス運行に関して皆様が不安に思うようなことがあれば、バス運行会社に質問し、皆様と回答を共有するなどして検討を進めていきます。

No.	質 問	回 答
7	【未就学児保護者】 バス通学について、何かあった場合は保護者が送迎する場合も考えられる。統合に伴って、学校の敷地の中に駐車場を整備することや通学路を整備することを考えているのか。	送迎用の車の待車場やロータリーの整備につきましては、意見交換会でも保護者の方からもたくさんご意見をいただいています。また、坂下中学校区の先生方と話をしていましても、保護者の方は車で送迎される方も多いとお聞きしていますので、新しい学校への駐車場整備の必要性は認識しています。 通学路については、道路幅を広げることが難しい場所もあります。そういったことも踏まえて、学校の設置場所を検討していきたいと考えています。
8	【地域住民】 通学バスについて、学校のカリキュラム上、帰りはバラバラの時間になると思う。学童を利用して帰る時間を調整できれば、バスの便数は減らせると思う。また、授業のカリキュラムを調整することも考えられるが、そのようなことを学校と調整することはできるのか。 学校の今後の方針について、どのような学校にするかを検討することが大事である。よい入れ物をつくっても、学校の魅力がなければ仕方がない。教育の観点からどういう計画を立てて、よい学校をつくらうとしているか具体的な説明をお願いしたい。	下校時の対応について、子どもの家は就労している保護者の支援という趣旨の事業であり、なかよし教室は子どもたちがいろいろなことを体験できる学校の延長の場という趣旨の事業のため、いずれの事業も子どもたちの下校時間を合わせる目的で使うことは事業の趣旨とは異なる場所ではあります。しかし、放課後の子どもたちの居場所を充実させるというのは一つの考え方として、検討が必要であると思います。 どんな学校をつくっていくかということは、市の方針もありますが、校長先生のリーダーシップや考え方にもよります。どういう学校ができるのか、それは義務教育学校か小中一貫型学校になるのか、また、一体型か分離型なのかにもよって、目指すものは変わってきます。春日井市では、一貫して一番大きな目標として、生涯にわたって学び続けられる子どもの育成を目指しており、それに向かって、市内の全ての小中学校が子どもたちの育成に各学校の特色を活かして取り組んでいます。 今後、統合後の学校の具体的な形が見えてくると、教育目標に向かってどのような学校にしていくかも考えやすく、この検討と同時に進めていくことになると思っています。
9	【地域住民】 現在、クラブ活動がなくなっていると聞いている。そうすると、子どもたちはバラバラに帰ることになったり、早く帰ってくることになったり、見守り隊の方や保護者の方が大変になる。学校の先生の働き方も変わってきていると聞いているし、学校が終わってからの子どもの見守りについて、モデルを示してもらえればと思う。	現在、部活動は地域クラブ活動への移行が進んでいます。ご質問の意図は、そういった様々な状況の中で、子どもたちがバラバラに帰るような状況がでてきて、地域の見守り隊などの方々の負担が増えることや、子どもたちの安全面に課題がでてくるのが心配であると受け止めました。 子どもたちの登下校の様々な課題については、通学バスの運行のこともあわせて検討していきます。

No.	質 問	回 答
10	【就学児保護者】 統合案について、様々な候補を示しているが、懇談会の中で決めるのか、または懇談会での意見を参考に市が決めるのか教えてほしい。 春日井市はこの候補の中で、どの案が現実的であると考えているのか。統合する場所によってはバスにかかる費用も変わると思うが、統合案を選ぶにあたっては材料が少ないと思う。もし可能であれば、「この場所に統合したらバスはこうなる。」といった具体的な判断材料が、次回の懇談会で欲しいと思う。	懇談会の中で皆様から様々な意見をいただいた上で、その意見を集約し、最終的には市が決定をさせていただくことになります。そのための判断材料として、現在の坂下中学校区で実現可能な6案を本日お示ししました。実現可能な案ということから、資料12ページの（考え方②）では、坂下小学校は土地の問題から難しいと考え候補から除いています。 この6案を検討する中で、例えば「バスはどれぐらい費用が違うのか。」「D案、E案、F案では土地を買わなければ成り立たないのではないか。」といった意見もあると思います。バスの費用はどれだけ違うのかなどについて、分かる範囲で情報を整理して、懇談会で情報提供していきたいと思っています。また他にもこんな情報が欲しいなどがあれば、都度、教えていただければと思います。

【メモ欄】

意見交換などで他グループの意見を書き留める際などにご利用ください。